

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

# 東京都感染症週報

2016年第19週  
(5月9日～5月15日)

- \* 2016年5月18日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は月報告(2016年4月)の疾患及び感染症豆知識「ジカウイ  
ルス感染症」も掲載しています。

平成28(2016)年5月19日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2016年19週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	71	76	38	65	1,266	396	8,105
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 <sup>*1</sup>							
	中東呼吸器症候群 <sup>*2</sup>							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9) <sup>*3</sup>								
三類	コレラ							1
	細菌性赤痢	2	2			15	1	45
	腸管出血性大腸菌感染症	6	3	5	1	38	30	280
	腸チフス					9		17
	パラチフス	1				4	2	8
四類	E型肝炎		1		2	19	6	166
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2	1	1	4	37	7	138
	エキノコックス症							3
	黄熱							
	オウム病							1
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症			1		1		1
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 <sup>*4</sup>							5
	重症熱性血小板減少症候群 <sup>*5</sup>						3	9
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					2		2
つつが虫病						4	58	
デング熱		3	2	2	37	9	128	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

\*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

\*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

\*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

\*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						5	27
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症	1				1		1
	マラリア	1				6	1	16
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症		4		2	34	23	379	
レプトスピラ症							3	
ロッキー山紅斑熱								

2016/5/18集計

( 全数把握対象疾患のコメント・一類～四類 )

〈二類感染症〉

**結核 65件** 患者51件(肺結核 35件、その他の結核 13件、肺結核及びその他の結核 3件)、無症状病原体保有者 13件、疑似症 1件、年齢は10代 1件、20代 9件、30代 3件、40代 9件、50代 7件、60代 10件、70代 12件、80代 10件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 61件、イタリア 1件、インド 1件、タイ 1件、国内又はベトナム 1件であった。

〈三類感染症〉

**腸管出血性大腸菌感染症 1件** 患者、血清型・毒素型はO26 VT1、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

**E型肝炎 2件** 患者 2件、年齢は40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 1件であった。

**A型肝炎 4件** 患者 4件、年齢は20代 1件、40代 1件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、韓国 1件、国内又は台湾 1件、推定感染経路は経口感染 2件、同性間性的接触又は経口感染 1件、不明 1件であった。

**デング熱 2件** 患者 2件、病型はデング熱 2件、血清型は不明 2件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地はインドネシア 1件、ミャンマー又はインドネシア 1件であった。

**レジオネラ症 2件** 病型は肺炎型 2件、年齢は60代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染 2件(銭湯 1件、24時間循環風呂 1件)であった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2016年19週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
五 類 ( 全 数 届 出 )	アメーバ赤痢	3	6	6	3	82	15	427
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	2			4	20	3	85
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1	4	3	70	14	475
	急性脳炎 *1	1	1		1	49	7	382
	クリプトスポリジウム症						1	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病		2			9	1	68
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1			27	4	193
	後天性免疫不全症候群	12	11	3	7	173	13	510
	ジアルジア症					6		23
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1			16	4	126
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1	1	20
	侵襲性肺炎球菌感染症	9	10	7	12	165	65	1,214
	水痘(入院例に限る)	1	1	2		17	3	96
	先天性風しん症候群							
	梅毒	42	26	13	48	590	84	1,336
	播種性クリプトコックス症	1				9		44
	破傷風	1	1			2	3	35
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症						1	13
風しん	3			1	9	3	41	
麻しん				2	3	3	8	
薬剤耐性アシネトバクター感染症							14	
2016/5/18集計								

\*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

### （全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 3件** 病型は腸管 3件、年齢は40代 2件、50代 1件、推定感染地はタイ 1件、国内又は国外(渡航先不明) 2件、推定感染経路は性別不明性的接触 1件、不明 2件であった。

**ウイルス性肝炎 4件** B型 4件、年齢は20代 2件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 3件、国外(渡航先不明) 1件、推定感染経路は異性間性的接触 3件、不明 1件であった。

**カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3件** 患者 3件、病原菌はエンテロバクター・クロアカ 2件、シトロバクター・フロインディ 1件、年齢は20代 1件、60代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は手術部位感染 1件、医療器具関連感染(末梢穿刺中心静脈カテーテル) 1件、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し3件であった。

**急性脳炎 1件** 病原体不明、年齢は10歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

**後天性免疫不全症候群 7件** 無症候キャリア 7件、無症候キャリアの年齢は20代 2件、30代 3件、40代 2件、推定感染地は国内 6件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 6件(同性間 4件、異性間 2件)、不明 1件であった。

**侵襲性肺炎球菌感染症 12件** 血清型は検査未実施 12件、年齢は5歳未満 2件、40代 1件、50代 1件、60代 5件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 12件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 7件、不明 5件、肺炎球菌ワクチン接種歴は13価4回接種済み 2件、23価1回接種済み 1件、価数不明1回接種済み 1件、無し 4件、不明 4件であった。60代 1件、80代 1件は死亡が確認された。

**梅毒 48件** 患者30件(早期顕症梅毒Ⅰ期 14件、早期顕症梅毒Ⅱ期 15件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 18件、年齢は10代 1件、20代 15件、30代 13件、40代 11件、50代 6件、60代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 48件、推定感染経路は性的接触 48件(同性間 22件、異性間 24件、性別不明 2件)であった。

**風しん 1件** 検査診断例、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

**麻しん 2件** 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、推定感染地はインドネシア 1件、インドネシア又はシンガポール 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、不明 1件、麻しん含有ワクチン接種歴は不明 2件であった。

※ 第17週該当分として〔五類〕劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件の追加報告があった。

# 定点把握対象疾患 報告数 2016年19週

上段: 報告数  
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2016年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		16週	17週	18週	19週		
小児科	RSウイルス感染症	37 0.14	23 0.09	7 0.03	14 0.05	260	264
	咽頭結膜熱	86 0.33	118 0.46	98 0.38	147 0.57		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	763 2.93	718 2.80	532 2.06	694 2.67		
	感染性胃腸炎	1,782 6.85	1,403 5.48	1,057 4.10	1,439 5.53		
	水痘	99 0.38	87 0.34	86 0.33	123 0.47		
	手足口病	22 0.08	11 0.04	14 0.05	19 0.07		
	伝染性紅斑	66 0.25	52 0.20	44 0.17	54 0.21		
	突発性発しん	158 0.61	158 0.62	139 0.54	196 0.75		
	百日咳	7 0.03	1 0.00		2 0.01		
	ヘルパンギーナ	4 0.02	5 0.02	11 0.04	20 0.08		
	流行性耳下腺炎	112 0.43	123 0.48	107 0.41	141 0.54		
	川崎病 *1	3 0.01	5 0.02	6 0.02	4 0.02		
	不明発しん症 *1	8 0.03	14 0.05	12 0.05	11 0.04		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	1,186 2.86	581 1.42	176 0.43		
眼科	急性出血性結膜炎					38	39
	流行性角結膜炎	23 0.59	22 0.56	15 0.38	30 0.79		
基幹	細菌性髄膜炎 *3			2 0.08	1 0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	4 0.16	1 0.04				
	マイコプラズマ肺炎	3 0.12	10 0.40	3 0.12	7 0.28		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1 0.04		1 0.04		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス) *4	7 0.28	9 0.36	2 0.08			
	インフルエンザ入院	8 0.32	5 0.20	4 0.16	2 0.08		

2016/5/18集計

\*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

\*2 鳥インフルエンザを除く。

\*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

\*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ( 今週の注目される定点把握対象疾患 )

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は1.0を下回った。
- ・ 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加傾向にあり、今後の動向に注意が必要である。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2016年19週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	3	1	1	19	1			3			
6～11か月	6	22	3	127	4	2	1	58		2	
1歳	3	50	22	202	4	10		105		9	4
2歳	1	23	29	149	9		2	19		3	9
3歳		19	65	133	6	1	6	5			9
4歳	1	15	92	133	18	2	8	4	1	2	20
5歳		6	90	110	13		16	1			24
6歳		2	72	76	16	1	7	1		1	22
7歳		4	76	76	20		5				12
8歳		1	57	48	17	1	3				16
9歳			50	38	8	1	2				11
10～14歳		3	86	145	6		3			2	9
15～19歳			8	34							1
20～29歳		1	43	149	1	1	1		1	1	4
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	14	147	694	1,439	123	19	54	196	2	20	141
先週比	7	49	162	382	37	5	10	57	2	9	34

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1									
6～11か月		1			2						
1歳	1	3	7		1						
2歳	2	1	2		1			1			
3歳		2	3								
4歳		2	4		1			1			
5歳	1	1	6					1			
6歳			3					2			
7歳			3		1			1			
8歳			5								
9歳			4		1						
10～14歳			9								
15～19歳			15		1						
20～29歳			6		4						
30～39歳			10		7			1	1		
40～49歳			11		6						
50～59歳			8								
60～69歳			1		3	1					1
70～79歳			2		2						
80歳以上											1
合計	4	11	99		30	1		7	1		2
先週比	-2	-1	-77		15	-1		4	1	-2	-2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

# 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2016年19週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田											0.67
中央区			2.00	5.50	0.50		0.50	1.00			
みなと	0.33	1.00	3.17	4.33	0.17	0.50	0.33	0.83		0.17	0.50
新宿区		0.13	2.38	3.00	0.13		0.13	0.38			
文京	0.25	0.25	2.00	3.50				0.50			0.50
台東		0.50	4.00	6.50		0.25	1.25	1.00		0.25	0.75
墨田区		0.60	2.20	1.00			0.20	0.80			0.80
江東区		0.44	2.67	8.56	0.44			0.33		0.33	0.89
品川区	0.25	0.63	0.88	5.00	0.13	0.13	0.13	1.00			
目黒区		0.60	2.20	5.80	0.40		0.20	0.80			0.20
大田区	0.08	0.54	3.46	8.08	0.08	0.08	0.62	1.31		0.23	0.69
世田谷	0.06	0.81	4.88	6.19	0.50		0.31	0.56		0.25	0.44
渋谷区	0.25		0.50	5.00	0.25		0.50	0.50			0.25
中野区	0.17	0.67	4.00	9.00	0.50	0.33	0.33	2.00			0.33
杉並		0.90	1.30	4.40	1.80		0.10				0.10
池袋		0.50	1.75	3.25		0.25		0.50			
北区			2.14	5.00	0.57		0.14	1.29			0.43
荒川区		1.25	4.00	5.25	0.25	0.50		1.00		0.25	0.25
板橋区		0.20	1.20	2.20	1.00	0.20	0.30	0.40		0.10	0.10
練馬区		0.08	3.31	5.00	0.54		0.08	0.54			0.54
足立		0.23	2.31	6.69	0.69		0.08	0.38		0.08	1.00
葛飾区		0.13	2.50	8.75	0.75	0.25	0.75	0.63			0.38
江戸川		1.00	1.42	7.00	0.75		0.33	0.75			0.33
八王子市	0.09	0.73	2.82	11.27	0.73	0.27	0.27	0.55	0.09		1.55
町田市	0.13	0.50	3.88	8.38	0.38	0.13		1.00		0.13	0.63
西多摩	0.13		1.75	3.13	0.38			0.63			1.25
南多摩		0.89	1.67	4.89	0.33			0.78			1.11
多摩立川	0.14	0.07	3.00	4.14	0.14			1.00		0.07	0.21
多摩府中		1.05	2.65	3.75	0.65		0.15	0.85	0.05	0.05	0.70
多摩小平		1.40	4.40	5.00	0.20		0.13	1.27		0.13	0.47
島しょ			1.00		1.00						
東京都	0.05	0.57	2.67	5.53	0.47	0.07	0.21	0.75	0.01	0.08	0.54

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田											
中央区			0.50		2.00						
みなと			0.44					2.00	1.00		1.00
新宿区	0.13				0.50						0.50
文京			0.14		1.00						
台東		0.25									
墨田区			0.50		3.00			1.00			
江東区		0.11	0.29								
品川区			0.17		2.00						
目黒区			0.13								
大田区	0.08	0.15	0.15		0.50						
世田谷	0.06		0.44								
渋谷区								1.00			
中野区	0.17		0.50								
杉並			0.19		1.00						
池袋			0.43								
北区			0.45								
荒川区			0.43		1.00						
板橋区			0.13		1.00						
練馬区			0.38		3.00						
足立		0.08	0.30		2.50						
葛飾区		0.13	0.15					1.00			
江戸川			0.22								
八王子市		0.09	0.06		0.50						
町田市		0.38	0.46								
西多摩											
南多摩											
多摩立川			0.19		0.50			1.00			
多摩府中		0.05	0.35		0.67	0.33					
多摩小平			0.17		0.50			0.50			
島しょ											

東京都	0.02	0.04	0.24		0.79	0.04		0.28	0.04		0.08
-----	------	------	------	--	------	------	--	------	------	--	------



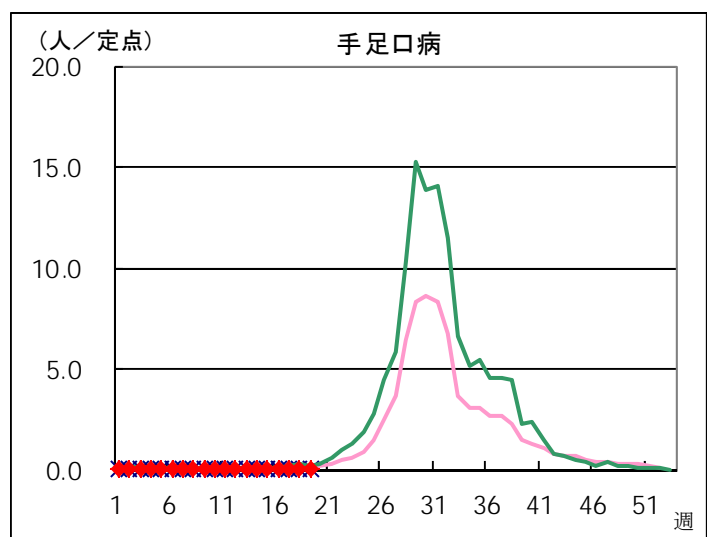
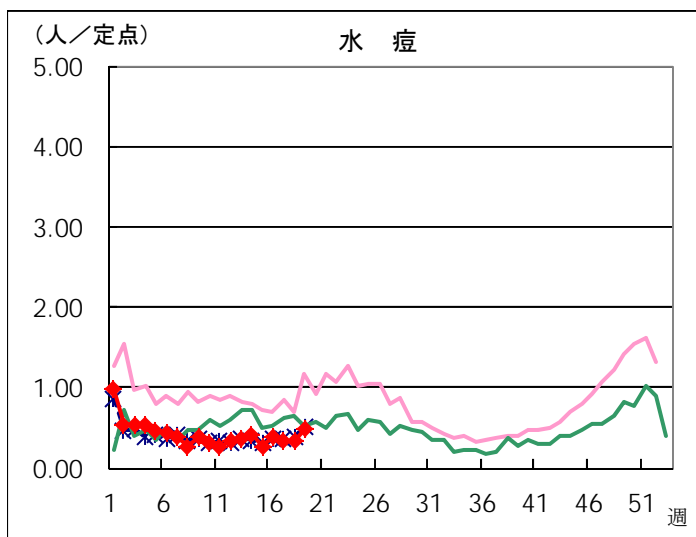
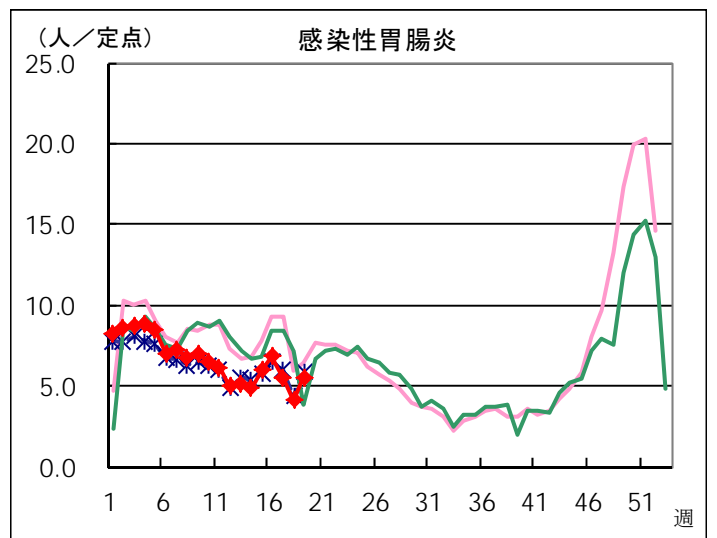
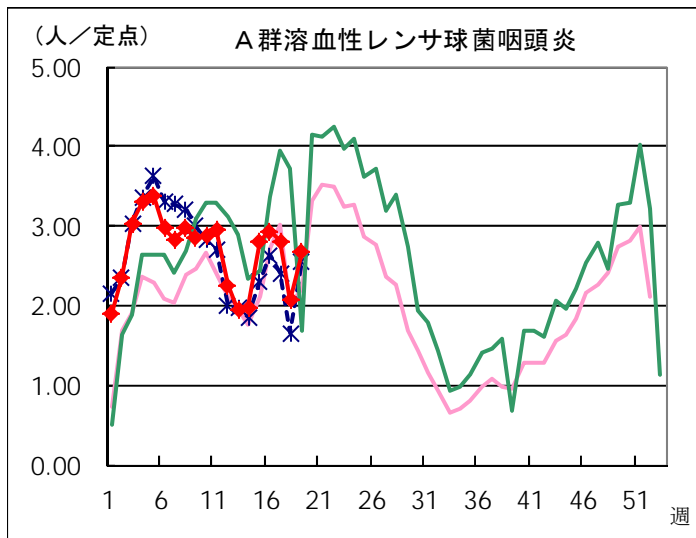
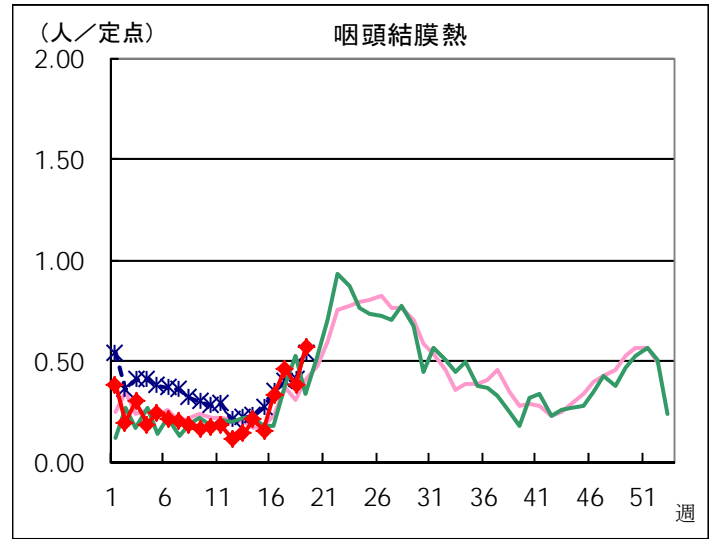
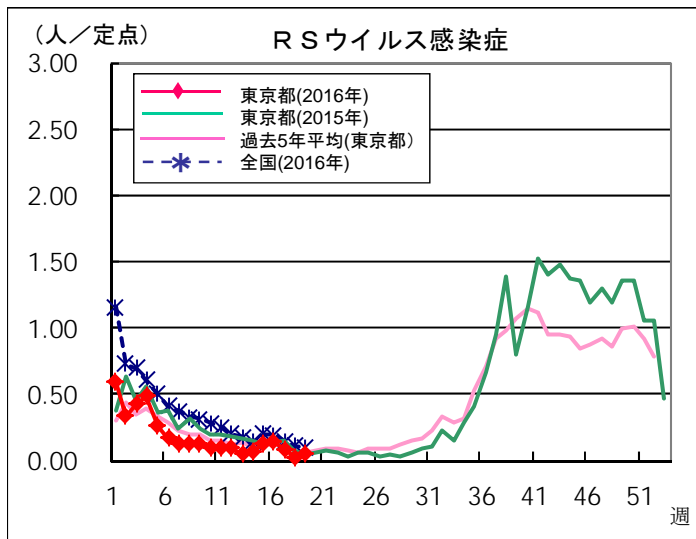
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2016年19週

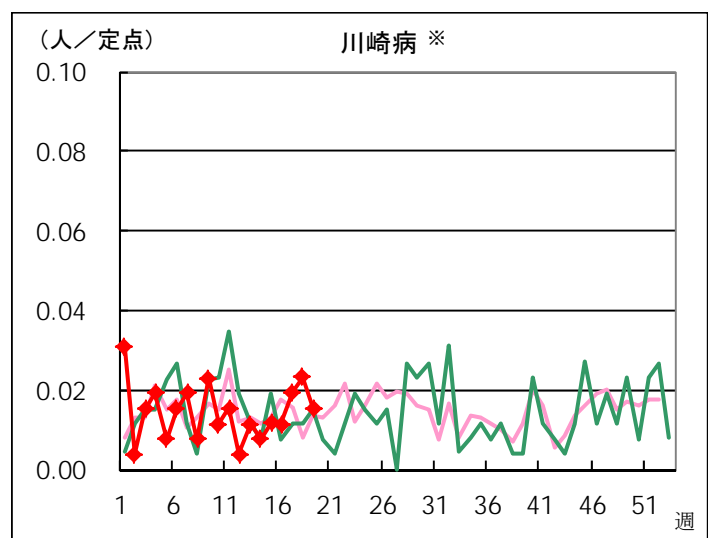
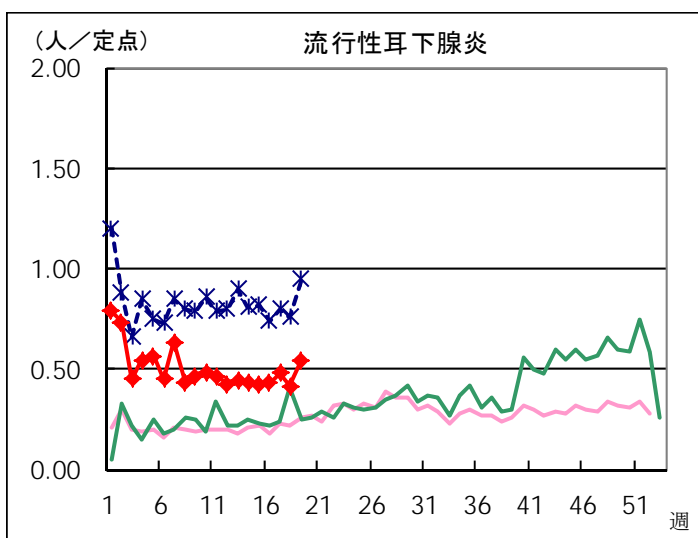
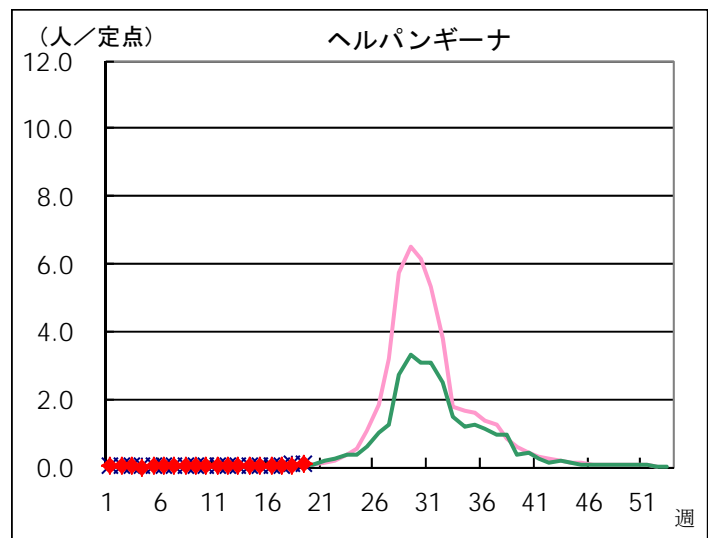
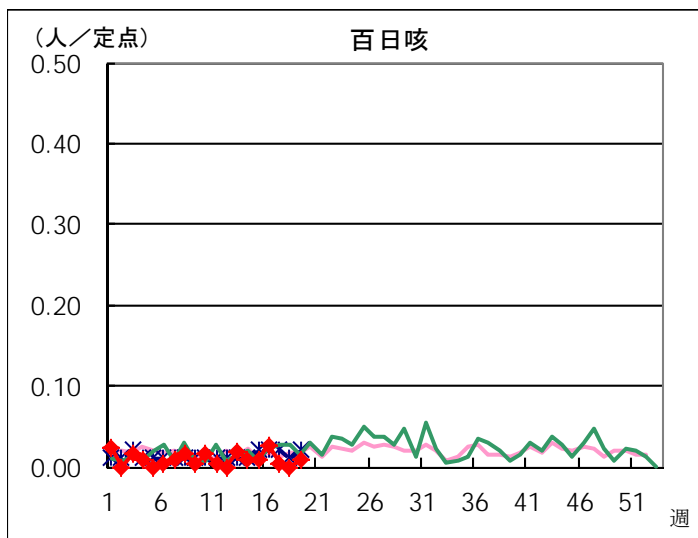
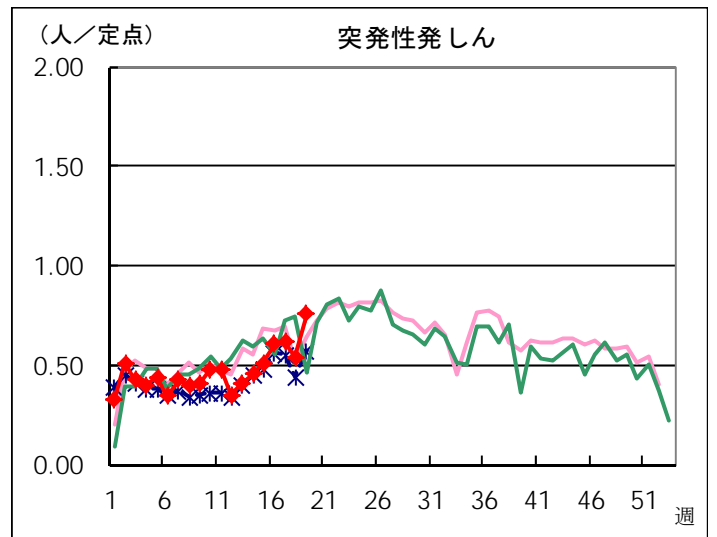
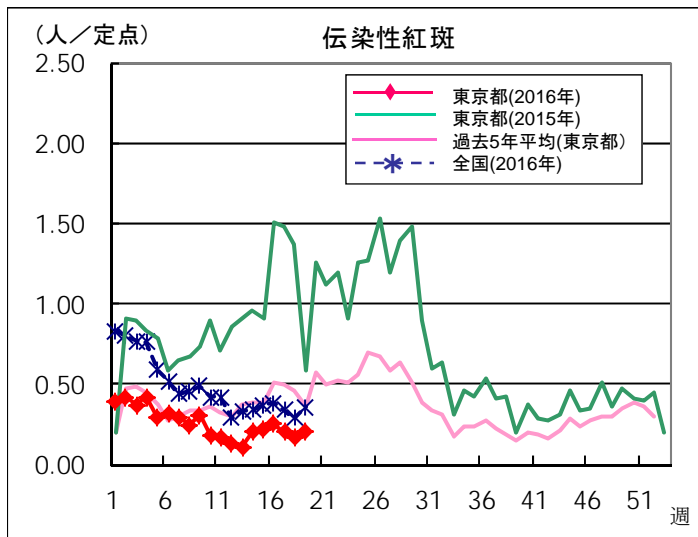
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田											2
中央区			4	11	1		1	2			
みなと	2	6	19	26	1	3	2	5		1	3
新宿区		1	19	24	1		1	3			
文京	1	1	8	14				2			2
台東		2	16	26		1	5	4		1	3
墨田区		3	11	5			1	4			4
江東区		4	24	77	4			3		3	8
品川区	2	5	7	40	1	1	1	8			
目黒区		3	11	29	2		1	4			1
大田区	1	7	45	105	1	1	8	17		3	9
世田谷	1	13	78	99	8		5	9		4	7
渋谷区	1		2	20	1		2	2			1
中野区	1	4	24	54	3	2	2	12			2
杉並		9	13	44	18		1				1
池袋		2	7	13		1		2			
北区			15	35	4		1	9			3
荒川区		5	16	21	1	2		4		1	1
板橋区		2	12	22	10	2	3	4		1	1
練馬区		1	43	65	7		1	7			7
足立		3	30	87	9		1	5		1	13
葛飾区		1	20	70	6	2	6	5			3
江戸川		12	17	84	9		4	9			4
八王子市	1	8	31	124	8	3	3	6	1		17
町田市	1	4	31	67	3	1		8		1	5
西多摩	1		14	25	3			5			10
南多摩		8	15	44	3			7			10
多摩立川	2	1	42	58	2			14		1	3
多摩府中		21	53	75	13		3	17	1	1	14
多摩小平		21	66	75	3		2	19		2	7
島しょ			1		1						
東京都合計	14	147	694	1,439	123	19	54	196	2	20	141

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田											
中央区			2		2						
みなと			4					2	1		1
新宿区	1				1						1
文京			1		1						
台東		1									
墨田区			4		3			1			
江東区		1	4								
品川区			2		2						
目黒区			1								
大田区	1	2	3		1						
世田谷	1		11								
渋谷区								1			
中野区	1		5								
杉並			3		1						
池袋			3								
北区			5								
荒川区			3		1						
板橋区			2		2						
練馬区			8		6						
足立		1	6		5						
葛飾区		1	2					1			
江戸川			4								
八王子市		1	1		1						
町田市		3	6								
西多摩											
南多摩											
多摩立川			4		1			1			
多摩府中		1	11		2	1					
多摩小平			4		1			1			
島しょ											
東京都合計	4	11	99		30	1		7	1		2

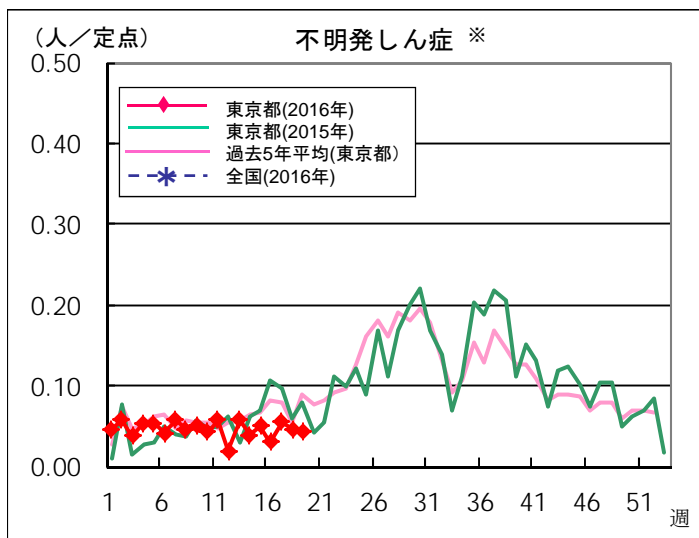
# 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2016年19週 現在)

## ◆ 小児科定点



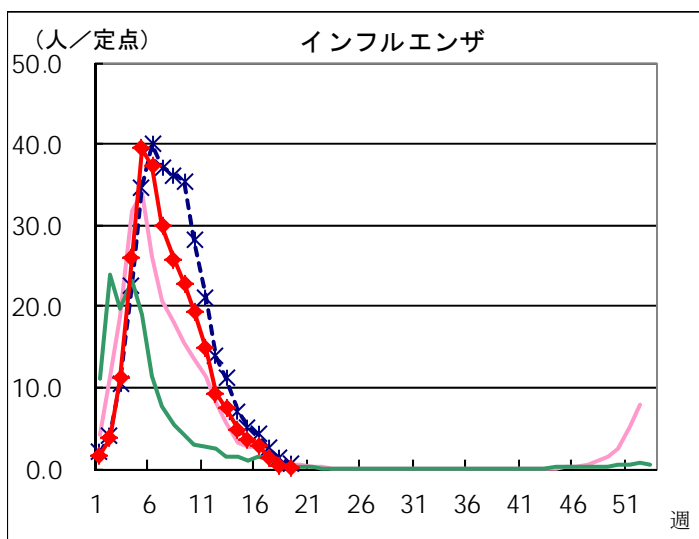


※ 東京都独自対象疾患

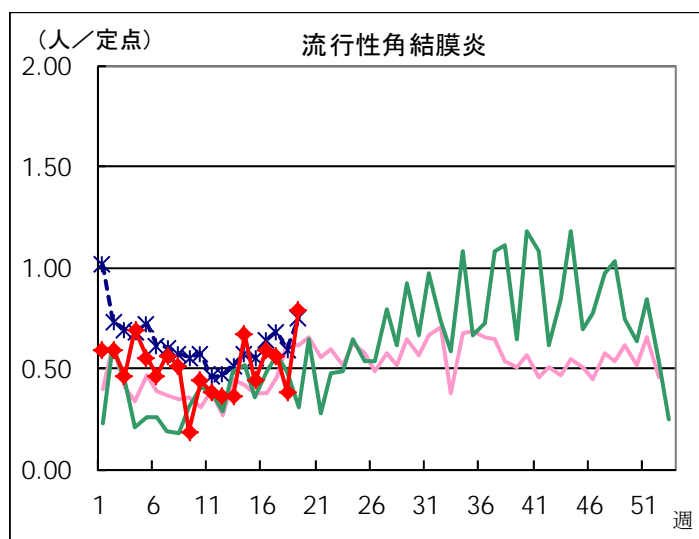
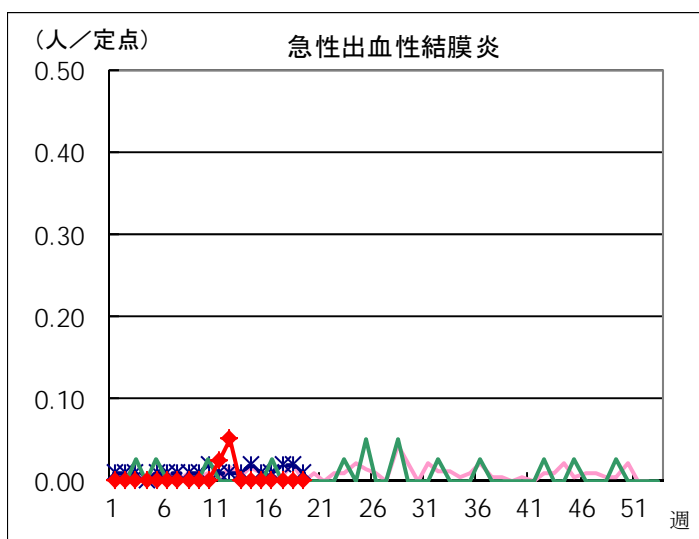


※ 東京都独自対象疾患

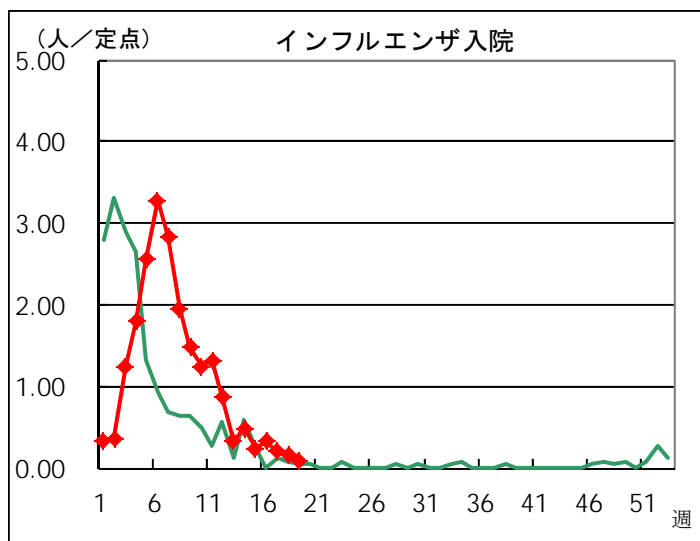
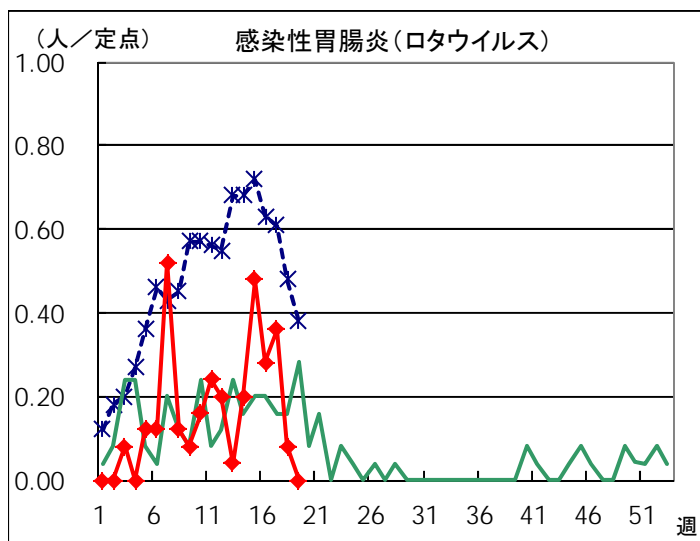
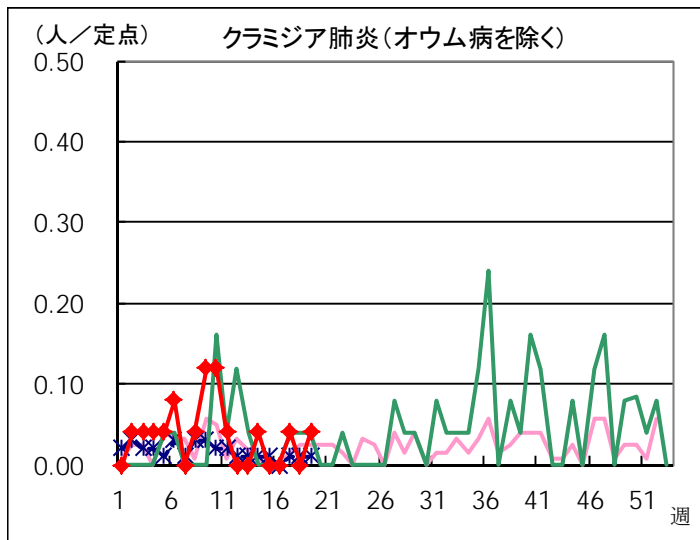
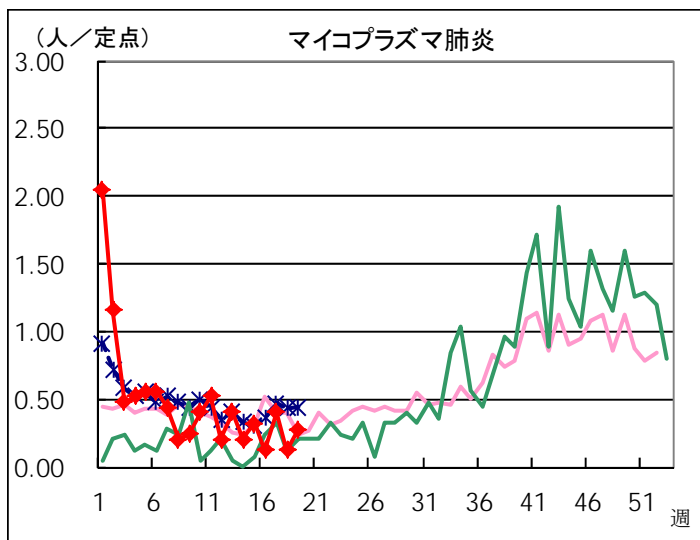
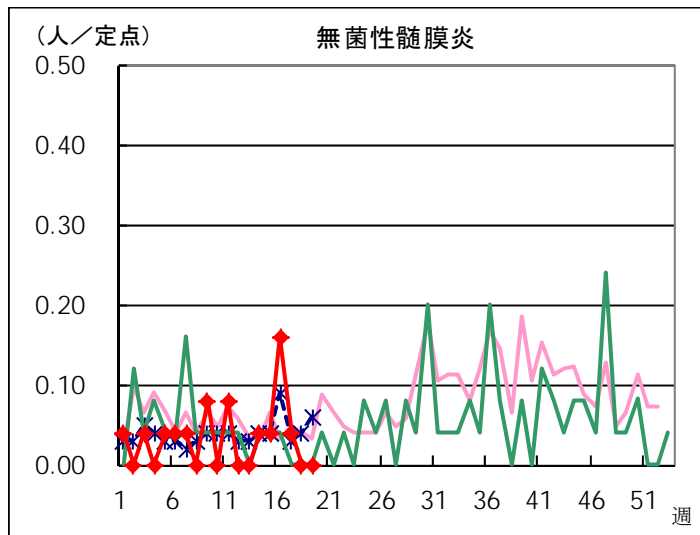
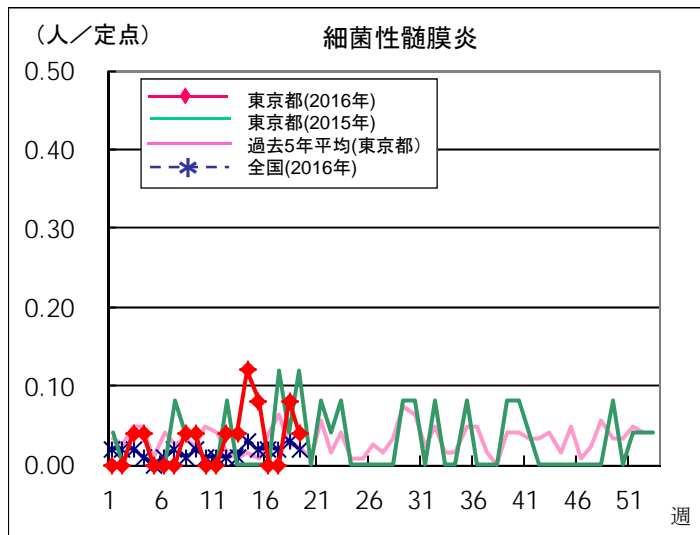
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



## 定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
4/11	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-3型
4/13	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-3型
4/15	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
4/15	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-B3264型
4/16	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-1型
4/16	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T型別不能
4/20	感染性胃腸炎	2	便	ノロウイルスG II
4/21	感染性胃腸炎	1	直腸拭い液	ノロウイルスG II

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2016年16週	2			16
2015-2016年 シーズン累計*	158		24	160

\* 2015-2016年シーズンの開始は第36週(2015年8月31日～)

## 病原体検出情報【週別】

検出病原体	2016年		
	14週	15週	16週
アデノウイルス	1	1	
コクサッキーウイルスA群			
コクサッキーウイルスB群			
エコーウイルス			
エンテロウイルス71			
その他のエンテロウイルス			
ライノウイルス	3		
単純ヘルペスウイルス			
水痘・帯状疱疹ウイルス		1	
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	2	2	
EBウイルス	1		
サイトメガロウイルス			
ムンプスウイルス	4		
麻疹ウイルス			
風疹ウイルス			
ヒトパルボウイルスB19			
RSウイルス			
ノロウイルス		1	2
ロタウイルス		4	
サポウイルス			
インフルエンザウイルスAH1亜型			
インフルエンザウイルスAH3亜型			
インフルエンザウイルスB型	11	13	16
インフルエンザウイルスAH1pdm09	4	2	2
デングウイルス			
その他のウイルス			
A群溶血性レンサ球菌T-1型			1
A群溶血性レンサ球菌T-3型	1		2
A群溶血性レンサ球菌T-4型	1	2	
A群溶血性レンサ球菌T-12型			1
A群溶血性レンサ球菌T-25型			
A群溶血性レンサ球菌T-28型			
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型		1	1
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			
A群溶血性レンサ球菌T型別不能			1
百日咳菌			
肺炎マイコプラズマ			
肺炎クラミジア			
髄膜炎菌			
B群レンサ球菌			
肺炎球菌			
インフルエンザ菌			
黄色ブドウ球菌			
大腸菌			
その他の細菌			
その他の病原体			

※病原体サーベランスによる検体搬入方法の変更に伴い、14～16週検出情報のみ掲載しています。  
9～13週までの検出情報は16週週報にてご確認ください。



# 病原体検出情報【臨床診断名別】

2016年14週～2016年16週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	1	12	10	1	1	1	2		1	6		10	49	5			1	4			
アデノウイルス														1	1						
コクサッキーウイルスA群																					
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス																					
エンテロウイルス71																					
その他のエンテロウイルス																					
ライノウイルス													2	1							
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					1																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								2					2								
EBウイルス										1											
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス										4											
麻疹ウイルス																					
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19																					
RSウイルス																					
ノロウイルス				3																	
ロタウイルス				4																	
サボウイルス																					
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型																					
インフルエンザウイルスB型														39	1						
インフルエンザウイルスAH1pdm09														8							
デングウイルス																					
その他のウイルス																					
A群溶血性レンサ球菌T-1型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-3型			3																		
A群溶血性レンサ球菌T-4型			3																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			2																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																					
A群溶血性レンサ球菌T型別不能			1																		
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

※病原体サーベランスによる検体搬入方法の変更に伴い、14～16週検出情報のみ掲載しています。9～13週までの検出情報は16週週報にてご確認ください。

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2016年4月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり	合計	定点当たり	報告医療機関数	定点医療機関数
性感染症	性器クラミジア感染症	男	109	1.98	189	3.44	55	55
		女	80	1.45				
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	92	1.67	131	2.38		
		女	39	0.71				
	尖圭コンジローマ	男	83	1.51	103	1.87		
		女	20	0.36				
	淋菌感染症	男	81	1.47	99	1.80		
		女	18	0.33				
	膣トリコモナス症	男			10	0.18		
		女	10	0.18				
基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	男	67	2.68	110	4.40	25	25
		女	43	1.72				
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	8	0.32	17	0.68		
		女	9	0.36				
	薬剤耐性緑膿菌感染症	男	1	0.04	1	0.04		
		女						

2016/5/13集計

月報告 定点把握対象疾患(性感染症・基幹) 報告数【年齢階級別】 2016年4月

< 男性 >

	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	膣トリコ モナス症	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
0歳						11	1	
1～4歳						5	2	
5～9歳						2	1	
10～14歳						1		
15～19歳	1	1				1		
20～24歳	14	5	5	10				1
25～29歳	20	11	8	18		3		
30～34歳	15	20	13	21				
35～39歳	19	12	16	13				
40～44歳	16	11	16	7				
45～49歳	15	11	11	7		1		
50～54歳	1	9	5	3				
55～59歳	3	8	3	2		3		
60～64歳	2	1	2			1	1	
65～69歳	3	2	2			5		
70歳～		1	2			34	3	
合計	109	92	83	81		67	8	1
先月比	-49	5	-20	-39		26	4	1

< 女性 >

	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	膣トリコ モナス症	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
0歳						4	1	
1～4歳						14	3	
5～9歳						1	1	
10～14歳								
15～19歳	6	2						
20～24歳	20	6	7	4	3			
25～29歳	24	10	6	1	3			
30～34歳	10	5	3	6	1			
35～39歳	8	5	1	2	1			
40～44歳	7	2		2	1			
45～49歳	2	3	1	2				
50～54歳	1	3	1	1	1			
55～59歳								
60～64歳	2					2		
65～69歳		1	1			1	1	
70歳～		2				21	3	
合計	80	39	20	18	10	43	9	
先月比	-14	3	2	-17	-1	7	6	

## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数 【保健所別】 2016年4月

＜ 男性 ＞

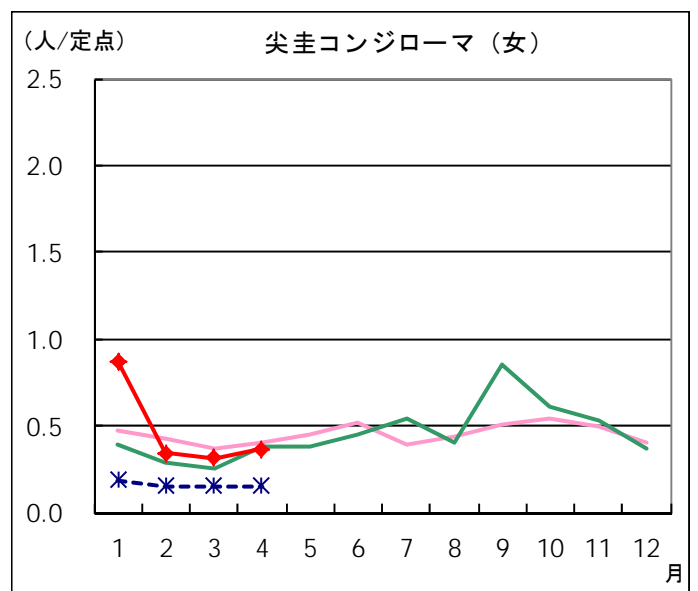
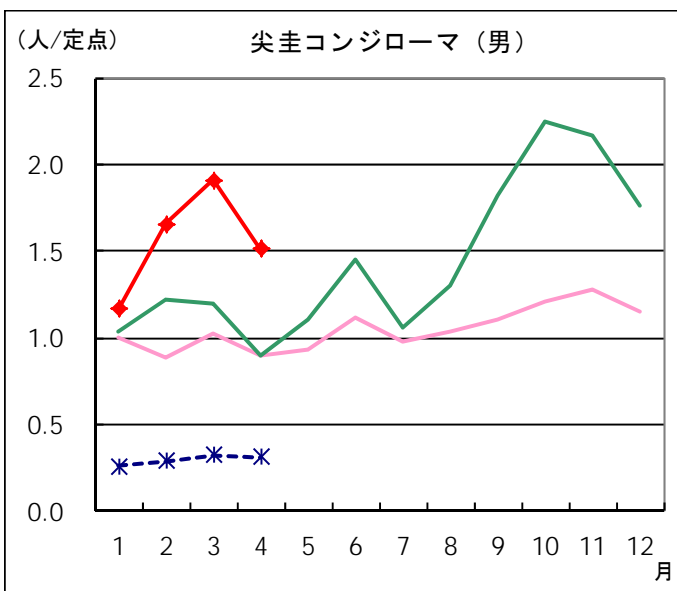
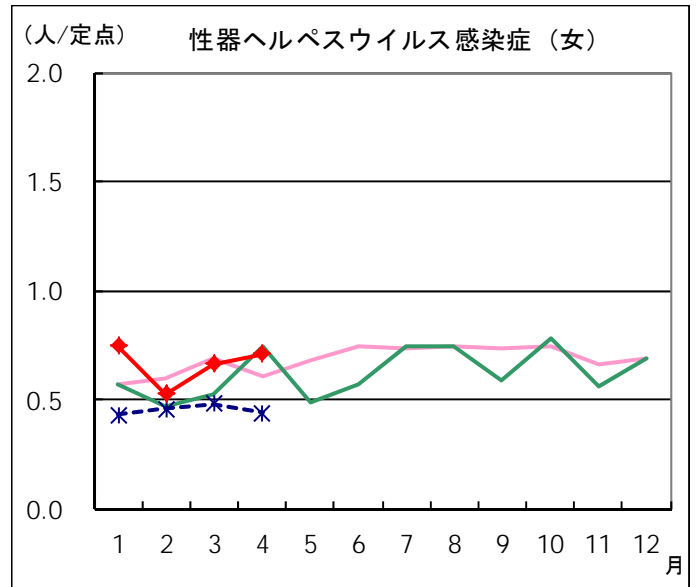
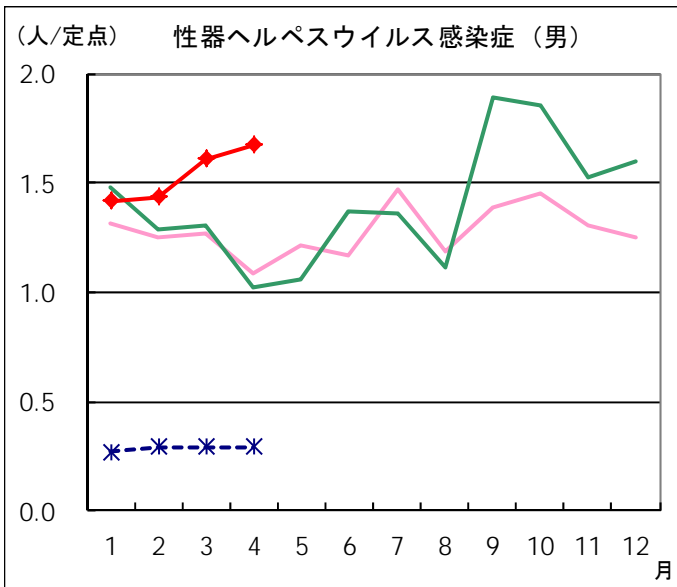
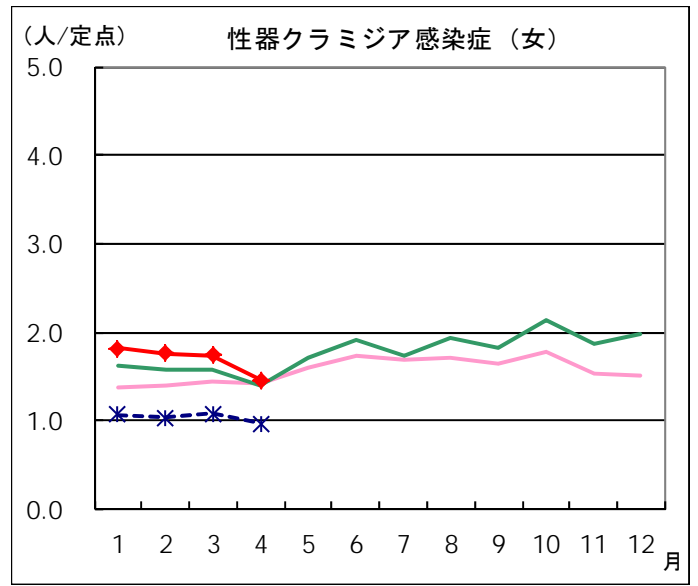
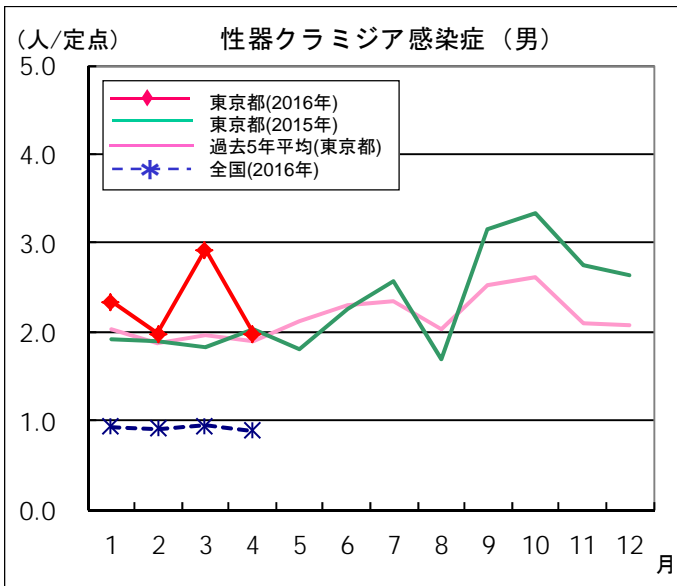
	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	総 計
千代田	2	5	2	3	6		16
中央区	3	5	4				9
みなと	2	7	35	10	1		53
新宿区	7	20	19	34	14		87
文京	1	2	1	1	1		5
台東	2				3		3
墨田区	2	1			2		3
江東区	2	7	7	6	4		24
品川区	1	1	1	2	1		5
大田区	2	2			2		4
渋谷区	5	36	18	21	30		105
中野区	2				1		1
杉並	2	1		3	4		8
池袋	3	13	5	2	10		30
北区	1			1			1
荒川区	1						
板橋区	2	2			1		3
足立	2				1		1
江戸川	2	7					7
八王子市	4						
町田市	1						
多摩立川	2						
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	55	109	92	83	81		365
定点当たり		1.98	1.67	1.51	1.47		6.64

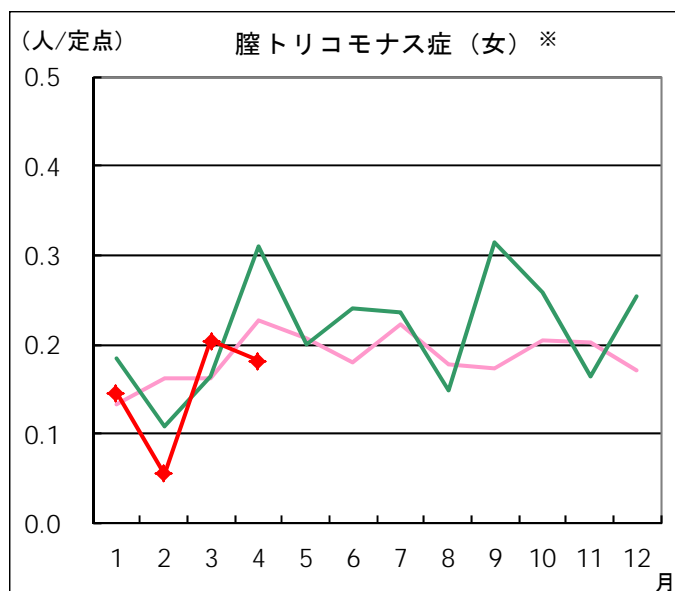
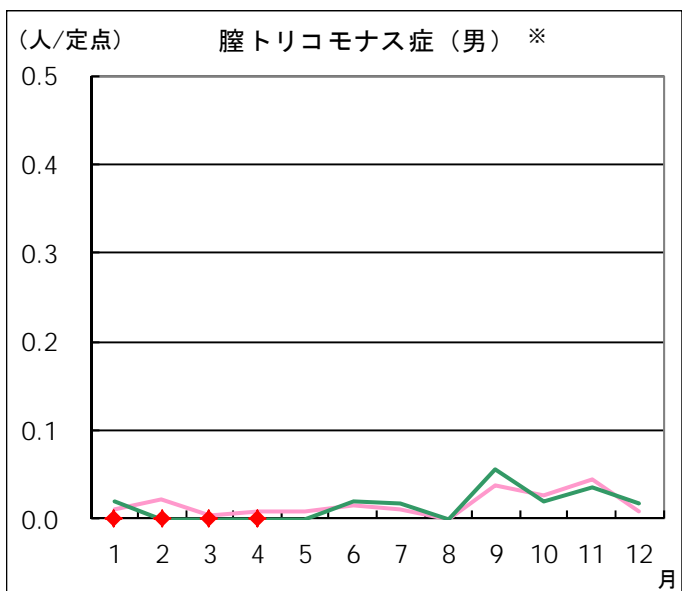
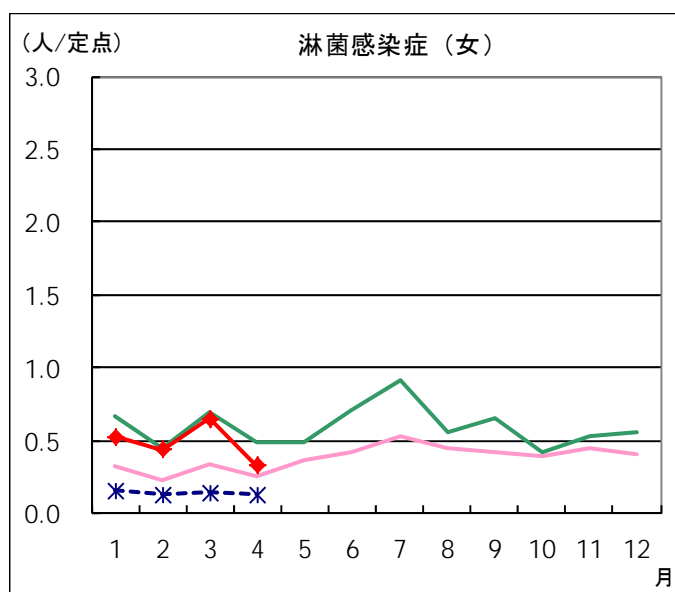
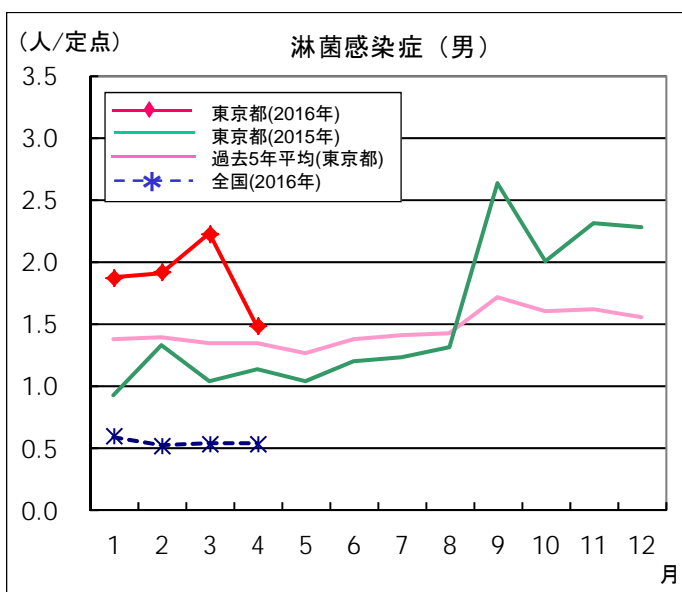
＜ 女性 ＞

	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	総 計
千代田	2	1	1				2
中央区	3						
みなと	2	4	3	3	1	1	12
新宿区	7	11	9	8	3		31
文京	1		1				1
台東	2	16		2	8	4	30
墨田区	2	1	1				2
江東区	2						
品川区	1						
大田区	2	2					2
渋谷区	5	7	7	3	3	1	21
中野区	2						
杉並	2	1					1
池袋	3	8	5	1		3	17
北区	1						
荒川区	1	2					2
板橋区	2	2	1		1		4
足立	2	3	1	1			5
江戸川	2	7			1	1	9
八王子市	4	6	2	1	1		10
町田市	1	3	3				6
多摩立川	2	6	4	1			11
多摩府中	3						
多摩小平	1		1				1
合 計	55	80	39	20	18	10	167
定点当たり		1.45	0.71	0.36	0.33	0.18	3.04

# 月報告 定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2016年4月 現在)

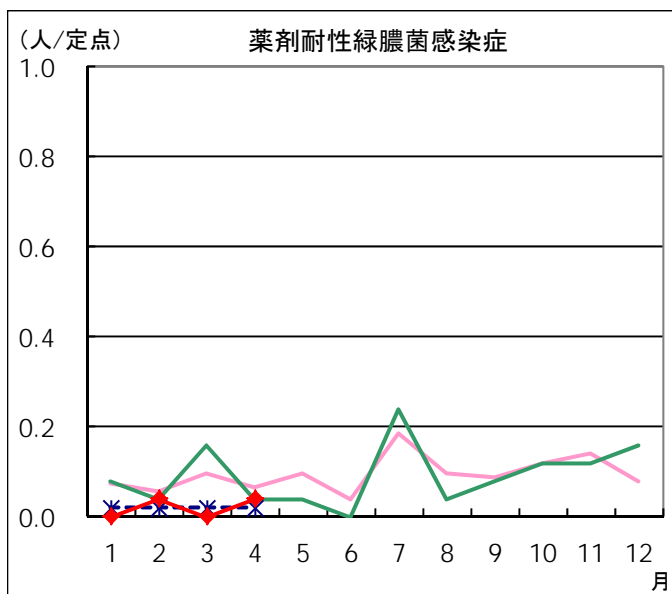
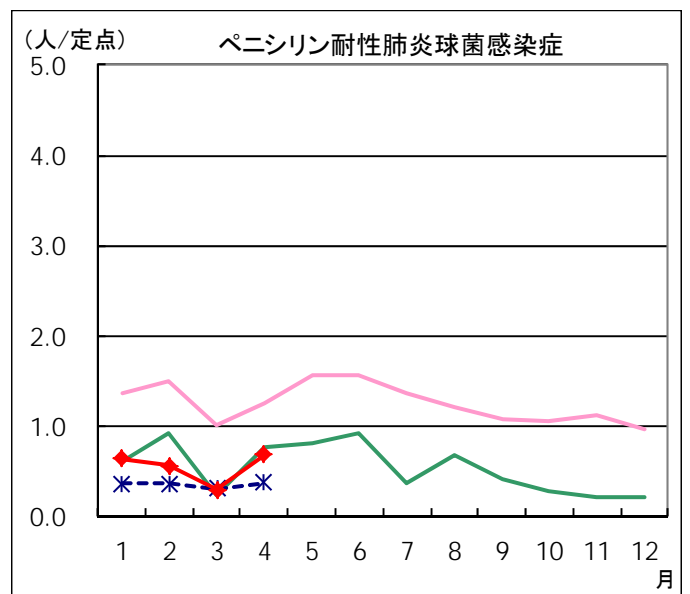
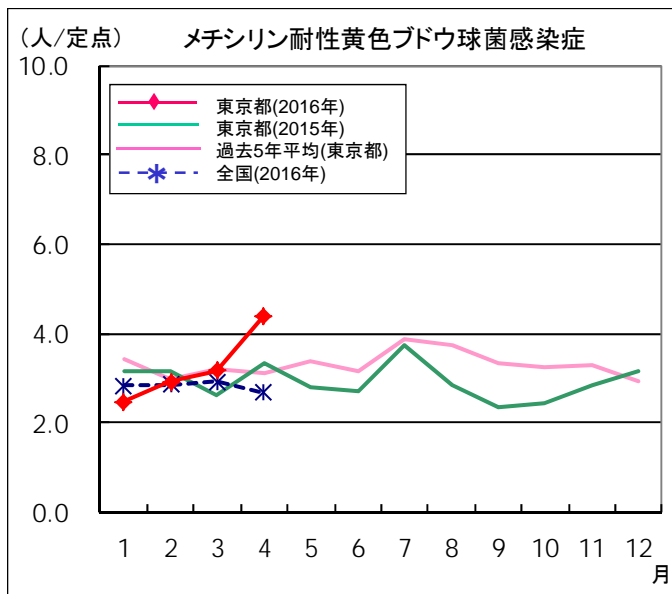
## ◆ 性感染症定点





※東京都独自対象疾患

◆ 基幹定点



## 定点医療機関から搬入された検体の検査情報(月報告)

採取日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体
3/28	尿道炎	25	男	尿	クラミジア・トラコマチス
3/28	尿道炎	29	男	尿	クラミジア・トラコマチス
3/31	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	85	男	血液	MRSAコアグラージェⅡ型
4/2	尖圭コンジローマ	69	男	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス11型
4/6	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	75	男	腹水	MRSAコアグラージェⅡ型
4/11	クラミジア感染症	41	女	陰部擦過物	クラミジア・トラコマチス
4/11	尖圭コンジローマ	48	男	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス11型
4/14	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	66	男	血液	MRSAコアグラージェⅢ型
4/18	尖圭コンジローマ	65	男	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス6型
4/23	尖圭コンジローマ	30	男	陰部擦過物	ヒトパピローマウイルス6型



## <感染症豆知識>

### ジカウイルス感染症

ジカウイルスは1947年ウガンダの森林 Zika のサルから見出されているが、ヒトの病気としては軽症でありあまり顧みられることはなかった。2013年仏領ポリネシアで流行時に、流行地から帰国した旅行者2名が発症したのが国内初で、次いでタイから帰国した1名の発症も確認されたが、いずれも軽症であった。2015年これまで発生がなかったブラジル、コロンビアを含む南米大陸で流行が拡大し、世界の耳目を集めている。症状は発熱・発疹・関節痛・結膜炎などデング熱とよく似ているが、重症化することはほとんどなく、8割ほどは不顕性感染に終わるので、患者がその経過について不安に思う必要はない。にもかかわらず、2016年2月1日にWHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態：PHEIC」宣言を行ったのは、デング・マラリア・黄熱などの蚊媒介性疾患は年を通して蚊が常在する地ではそのコントロールは極めて困難になること、流行は総じて中～低所得国であること、そして科学的証明はまだ十分ではないものの妊婦感染による小頭症発生、ギランバレー症候群発症の可能性が考えられること、であろう。さらに流行国でのオリンピック開催なども影響を与えているかもしれない。

国内においては、2014年のデング熱のような一時的な小流行はあるかもしれないが、大流行あるいは常在化までは目下のところ考えられない。国内にいる限りは妊婦に感染が及ぶリスクも極めて低いといえる。しかしデング熱の時に再認識した、蚊が発生しないようにすることは依然重要である。疫学的・ウイルス学的調査など急速に進められているので、オリンピックの頃までにはもっと疾患の解明がすすむであろう。しかし現時点で赤ちゃんに影響が及ぶような不確定のリスクをまず避ける意味で、妊婦あるいは妊娠の可能性を考えている女性とその性的パートナーの流行地への旅行などは延期したほうが無難であろう。

(文責 川崎市健康安全研究所長 岡部信彦)